

# 展 示

企画展「和更紗 一堺・京・長崎一」

平成24年4月7日(土)～6月3日(日)

鮮やかな文様が染め出されたインド更紗。日本には大航海時代の16世紀末頃にもたらされたと考えられます。木綿の布に、赤・青・金などで色彩豊かに異国的な文様が染め出された更紗の美しさは、日本の人々の心を捉え、魅了しました。

江戸時代にはオランダやイギリス、中国によって、インド更紗のほかヨーロッパ製の更紗ももたらされました。それらの影響を受けて、日本製の更紗「和更紗」が生まれます。古くから染物の中心地であった京都や、港町として栄えた堺や長崎などが代表的な製作地と伝えられていますが、製作の実態についてはよくわかっていません。

現在残る和更紗は、ほとんどが江戸後期以降のもので、多数の「型紙」を使って色を染め分けるといふ日本独特の技法で製作されており、風呂敷や蒲団表、襦袢などに用いられて人々の生活を彩りました。

本展においては、「堺更紗」「京更紗」「長崎更紗」と呼ばれる類のものをはじめ、さまざまな和更紗を紹介し、和更紗の豊かな世界をお楽しみいただきました。(宇野)

<主な展示品> \*名称・年代・所蔵

- 第1章 舶来の更紗 茜の赤、異国の花  
—インド更紗・ヨーロッパ更紗—  
茜地花唐草文様更紗 煙草入(インド更紗) 18世紀 個人蔵  
草花文様更紗(インド更紗) 19世紀 当館蔵  
赤地楼閣人物文様更紗 半襦袢(ヨーロッパ更紗) 19世紀 個人蔵
- 第2章 異国への憧れⅠ 蘇芳の赤、鳳凰、唐子  
—長崎更紗—  
赤地鳳凰唐子文様更紗 江戸時代後期 正林菊子コレクション  
赤地鯉仙人図更紗 江戸時代後期 正林菊子コレクション
- 第3章 異国への憧れⅡ 藍、大輪の花  
—堺更紗—  
藍地菊唐草文様 蒲団表 江戸時代後期 個人蔵  
藍地草花文様更紗 座蒲団 江戸時代後期 個人蔵

第4章 異国への憧れⅢ 唐花、幾何学文様

—京更紗—

薄茶地唐花文様更紗 夜着

江戸時代後期 個人蔵

茶地変わり格子文様更紗 夜着

江戸時代後期 個人蔵

第5章 さまざまな文様

白地大坂名所文様更紗 江戸時代後期 当館蔵

黄地紅毛唐人物文様更紗 江戸時代後期 当館蔵

更紗便覧 蓬萊山人帰橋著

江戸時代・安永7年(1778)奥付 熊谷博人氏蔵  
更紗見本帳 山中権十郎編

明治時代 熊谷博人氏蔵

<関連事業>

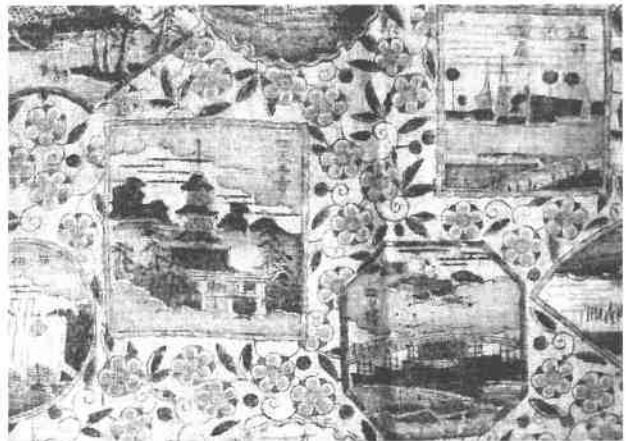
学芸講座(展示品解説含む)

日時:5月19日(土)午後2時～3時30分

展示品解説

日時:4月22日(日)・5月20日(日)午後2時～

<展示品より>



白地大坂名所文様更紗(部分)江戸時代後期 当館蔵

金城(大坂城)、道頓堀の芝居、天保山、堂島の米市、四ツ橋、四天王寺、住吉大社、高津宮、桜宮神社という9つの名所を散らした和更紗。おそらく大坂で販売されたものだろう。異国的な趣は背景の花唐草文様にのみ残るといえる。粗く織られた木綿生地は幅65cmの広幅で、長さは70cmにカットされており、風呂敷として用いられたものと思われる。

企画展「近代の書—日下部鳴鶴の門流を中心に—」

平成24年6月9日（土）～7月29日（日）

明治維新の折に人心一新のため、明治元年（1868）、新政府が徳川幕府の公用書体であった「御家流」を廃し、公文書を「唐様」で書くように制度を改めたため、日本古来の「和様」に代わって中国風の書が再び脚光を浴びるようになりました。その後、明治13年（1880）、来日した清国の歴史地理学者楊守敬（1839～1915）のもたらした豊富な漢魏六朝の碑文の拓本等の影響や、開国による日本人自身の中国渡航等により、それまでの「元明書風」がすたれ、新時代にふさわしい唐様である「六朝書風」が流行して、いわゆる「書の文明開化」あるいは「書道維新」による「近代の書」時代が開幕しました。この時代には、一門一派による「門流」が成立し、大正時代中期頃から次第に、「書壇」の土台が形成されていきました。当時、中心的な役割を果たした「門流」は、「明治の三筆」「近代日本の書聖」と称えられた日下部鳴鶴（1838～1922）の門流でした。鳴鶴は、彦根藩士田中惣右衛門の次男に生まれ、日下部家の養子となり、明治維新後、「明治の元勳」大久保利通の信任を得て太政官大書記にまでなりましたが、明治11年（1878）大久保利通の暗殺を受け、翌年に官を辞し、書家に専念しました。彼の書は、はじめ「幕末の三筆」巻菱湖の書風を学びましたが、楊守敬の来朝がもたらした古碑帖の影響で書風が一変して「六朝書風」の祖となり、明治期以降の書の世界を大きくリードしました。晩年では、門弟数百人を数え、近藤雪竹、丹羽海鶴、渡辺沙鷗、比田井天来など、現代の漢字（唐様）書壇の祖と称される門人を多数輩出していきました。また、「幕末の三筆」貫名菘翁（海屋）（1778～1863）に私淑して「近世日本の書聖」と喧伝したことで知られています。

本展では、本館蔵山下是臣コレクションの近代書家作品から、日下部鳴鶴と現代の漢字書壇の主流の祖と目される彼の門流「鳴鶴流」の系譜を引く書家の作品を中心に、明治時代から昭和時代初期にかけての代表的な書家の作品を紹介いたしました。また、日下部鳴鶴が日本で最も高く評価して私淑した貫名菘翁（海屋）が、今年没後150年となることも記念して、同じく本館蔵山下是臣コレクションの貫名菘翁（海屋）の優品を併せて紹介いたしました。（倉橋）

<出品リスト>

A、「近代日本の書聖」日下部鳴鶴とその門流		
「鳴鶴流」の系譜に連なる書家		
日下部鳴鶴筆	七言絶句「論書」	1幅
日下部鳴鶴筆	対聯「飲泉」「明月」	対幅
日下部鳴鶴筆	五言絶句「山中幽居」	1幅
日下部鳴鶴筆	扁額「静和堂」	1面 前期
日下部鳴鶴筆	扁額「雄奇淡遠」	1面 後期
日下部鳴鶴筆	扁額「松齋」	1面
近藤雪竹筆	五言絶句	1幅
丹羽海鶴筆	五言絶句	1幅
丹羽海鶴筆	扁額「観山聴泉」	1面
比田井天来筆	七言二句	1幅
比田井天来筆	対聯 対幅	
比田井天来筆	扁額「須静山房」	1面 前期
比田井天来筆	扁額「梅顛居」	1面
比田井天来筆	扁額「釣月耕雲」	1面 後期
大橋不染筆	七言二句	1幅
大橋不染筆	七言絶句	1幅
大橋不染筆	七言二句	1幅
大橋不染筆	扁額「自適」	1面
川谷尚亭筆	七言二句	1幅
川谷尚亭筆	臨佐理賀歌	1幅
石橋犀水筆	写経	1幅
B、日下部鳴鶴の門流とともに「近代の書」時代を彩った書家		
金井金洞筆	対聯	1幅
寺西易堂筆	五言絶句「破体」	1幅
松田南溟筆	対聯 対幅	
松田南溟筆	七言律詩「田園雜興」	1幅
磯野秋渚筆	五言絶句	1幅
C、日下部鳴鶴が日本において最も高く評価した「近世日本の書聖」貫名菘翁（海屋）		
観黄薇筱井氏蔵平安書		1幅（海屋書風）
賀語	五言二句	1幅（海屋書風）
十字二句「天地無私」		対幅（菘翁書風）
一行書「一諾黄金信」		1幅（中風様書風）
柳々州之詩		1幅（中風様書風）
以上、31件		

※「前期」は、6月9日（土）～7月8日（日）に、「後期」は、7月10日（火）～7月29日（日）に展示しました。

<関連事業>

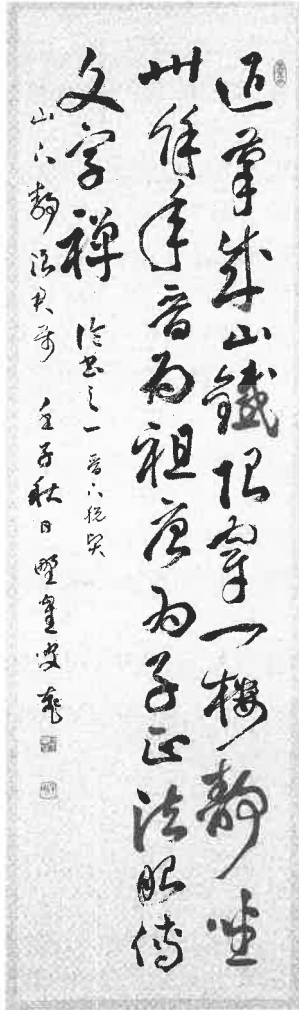
学芸講座（展示品解説含む）

日時：7月16日（月・祝）午後2時～3時30分

演題：近代の書について

展示品解説

日時：6月24日（日）午後2時～



写真解説

日下部鳴鶴筆 七言絶句「論書」

大正元年（1912） 1幅

本作品は、日下部鳴鶴の論書詩の1つです。

「楷書千字文」・「草書千字文」の筆者で、六朝陳の僧侶であり、「書聖」王羲之7世の孫という智永を詠んだ七言絶句です。

大正元年の秋に、山下是臣が日下部鳴鶴を訪ねた折、書の精神を記した「書論」として授けられたものとわかります。

（漢詩釈文）

退筆成山鉄限穿、一棧静坐」卅餘年、晋賢為  
祖唐為子、正法眼伝文字禪、

## 企画展「郷土画家岸谷勢蔵—失われた堺の風景—」

平成24年8月4日（土）～11月4日（日）

本展では、昨年度の企画展「堺の近代—郷土画家岸谷勢蔵—」に続いて、岸谷勢蔵（1899～1980）が描いた大正・昭和の堺の風景画を紹介しました。今年度の展示は、岸谷作品が持つ20世紀の都市堺の記憶遺産的側面に注目をしました。

岸谷は現在の堺市堺区大町東1丁の木綿卸商の家に生まれ育った、生粋の堺人でした。宿院高等小学校を卒業後に、大阪精華美術学院で絵を学んでいます。教科書の挿絵の執筆や市嘱託として堺市の広報にも力を尽くしました。昭和19（1944）年に堺市の依頼により市中心部である宿院の建物疎開前の景観を描いた疎開地区記録が、戦前の堺の町の景観を知ることができるものとして有名です。その他にも、当時の古老から明治時代の堺の風俗を聞き取って絵と文章で記録した風物画や、終戦後に金岡に進駐した部隊に勤務時に描いたアメリカ人の肖像など、20世紀の堺の歴史を知る上で貴重な資料となる作品を多く遺しています。

昨年5月、近代の筑豊炭田での労働の記録画を描いた山本作兵衛（1892～1994）の作品群が、日本初のユネスコの世界記憶遺産として登録されました。近代の生活文化の記録画に関する関心は、非常に高まっています。岸谷が描いた作品は、単に画家個人の記憶の表現にとどまるものではなく、都市堺の20世紀の記憶を描きとった貴重な資料といえます。

本展では、本館蔵の岸谷の作品や草稿を紹介するとともに、岸谷の絵画制作の過程を窺うことができる資料を初めて展示して、堺が生んだ郷土画家岸谷勢蔵の魅力に迫りました。

なお、本展は泉州・紀北ミュージアムネットワークの協力を得て開催、9月27日午後15時に当館で泉州紀北ミュージアムネットワークの研究集会を実施しました。研究集会では本展に関するシンポジウムを行い、基調講演は堺市博物館が矢内、コメントは小谷城郷土館 小谷館長、明治・大正・昭和暮らしの資料館 南川館長が行いました。

（矢内）

### ＜主な展示品＞

第一回堺市勤業祭絵巻	1935（昭和10）年
堺市第一次疎開地区記録	1944（昭和19）年
戦災スケッチ図	1945（昭和20）年
米進駐軍金岡部隊招聘中作品集	1947（昭和22）年～1948（昭和23）年
踊りスケッチ帖	1948（昭和23）年
生家	1949（昭和24）年
南蛮人渡来の図	昭和時代
南蛮船堺浦来航の図	昭和時代
大浜灯台	昭和時代
スケッチブック	12冊 昭和時代
絵画制作資料	1括 昭和時代

以上すべて、堺市博物館蔵

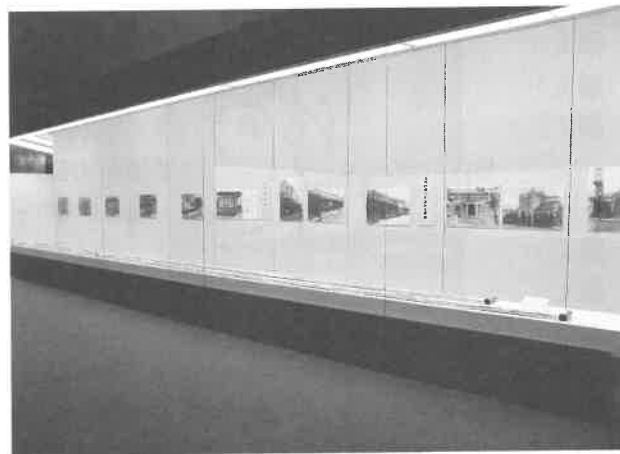
### ＜関連事業＞

学芸講座（展示品解説含む）

日時：9月30日（日）午後2時～3時30分

展示品解説

日時：8月26日（日）・10月8日（月・祝）



**特別展 「発掘された日本列島2012」**

**地域展 「激動の時代"慶長"を掘る—よみがえる400年前の京都・大阪・堺—」**

主催：文化庁・堺市博物館

平成24年11月17日（土）～12月24日（日）

文化庁では、全国的に注目された発掘調査の成果を、より多くの方々に、できるだけ早く、分かりやすく御覧いただくことを目的として平成7年度から「発掘された日本列島」展を開催しています。

今年度は、旧石器時代から近代までの全国20の遺跡から出土した約580点の出土品の展示が行われ、6月12日（火）に東京都江戸東京博物館からスタートして、八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館（8月8日～9月17日）、藤枝市郷土博物館・文学館（9月28日～11月6日）、堺市博物館、鳥取県立博物館（1月12日～2月24日）を会場としてほぼ一年かけて巡回しました。

また、「東日本大震災における文化財保護のとりくみ」と題したテーマ展示が行われ、これまで文化庁が被災地の文化財保護に関して行ってきた取組が紹介されました。また、現在も引き続き行われている復興に伴う発掘調査の成果等についても併せて展示しました。

関連事業として11月17日（土）午後2時～3時30分に文化庁記念物課調査官 近江俊秀氏による講演会・展示品解説を開催し、12月1日（土）、12月16日（日）午後2時～3時には展示品解説を行いました。

＜主な展示遺跡＞

- 旧石器時代：中東遺跡（埼玉県三芳町）
- 縄文時代：鳥遺跡（岐阜県飛騨市）・漆下遺跡（秋田県北秋田市）・上宮田遺跡（千葉県袖ヶ浦市）
- 弥生時代：泉坂下遺跡（茨城県常陸大宮市）・旧練兵場遺跡（香川県善通寺市）・五斗長垣内遺跡（兵庫県淡路市）
- 古墳時代：本高古墳群・本高弓ノ木遺跡（鳥取県鳥取市）・仁田埴輪窯跡（佐賀県唐津市）・史跡牽牛子塚古墳・越塚御門古墳（奈良県明日香村）
- 古代：牛頸窯跡群（福岡県大野城市）・小谷池遺跡・中谷池遺跡（秋田県男鹿市・五城目町）、
- 中世：堂ヶ谷廃寺・堂ヶ谷経塚（静岡県牧之原市）・史跡鷹島神崎遺跡（長崎県松浦市）
- 近世：史跡石清水八幡宮境内（京都府八幡市）・松江城下町遺跡（島根県松江市）
- 近代：西南戦争遺跡（熊本県玉東町・熊本市）
- テーマ展示：赤柴遺跡（福島県新地町）・檜内I遺跡（岩手県宮古市）・杓形遺跡（宮城県仙台市）

**特別展 知りたいことや感動がここにある 堺市博物館**  
 〒590-0802 堺市東区百舌鳥長岑2丁 大仏公園内  
 TEL.072-245-8201 博物館の催しを24時間ご案内！ ネット予約 http://www.city.sakai.jp/hakubutsu/

**発掘された日本列島 2012**  
 重要な遺跡・遺物の最新発掘速報展  
 11月17日（土）～12月24日（日）

**地域展 激動の時代「慶長」を掘る**  
 一よみがえる400年前の京都・大阪・堺—  
 同時開催 講演会  
 「発掘された日本列島2012」について 11月17日（土）14時～15時30分  
 「秀吉を襲った大地震—徳川幕府の成立と慶長文化—」 11月25日（日）14時～15時30分  
 講師：文化庁文化財部記念物課 文化財調査官 近江俊秀氏  
 文化庁文化財部記念物課 文化財調査官 近江俊秀氏  
 文化財調査官 近江俊秀氏

**特別展 発掘された日本列島 2012**

1 中東遺跡 (埼玉県三芳町)	11 本高古墳群 (鳥取県鳥取市)
2 鳥遺跡 (岐阜県飛騨市)	12 漆下遺跡 (秋田県北秋田市)
3 上宮田遺跡 (千葉県袖ヶ浦市)	13 泉坂下遺跡 (茨城県常陸大宮市)
4 旧練兵場遺跡 (香川県善通寺市)	14 五斗長垣内遺跡 (兵庫県淡路市)
5 仁田埴輪窯跡 (佐賀県唐津市)	15 史跡牽牛子塚古墳 (奈良県明日香村)
6 越塚御門古墳 (奈良県明日香村)	16 牛頸窯跡群 (福岡県大野城市)
7 小谷池遺跡 (秋田県男鹿市)	17 中谷池遺跡 (秋田県男鹿市)
8 堂ヶ谷廃寺 (静岡県牧之原市)	18 史跡鷹島神崎遺跡 (長崎県松浦市)
9 石清水八幡宮境内 (京都府八幡市)	19 松江城下町遺跡 (島根県松江市)
10 西南戦争遺跡 (熊本県玉東町・熊本市)	20 テーマ展示 (福島県新地町・岩手県宮古市・宮城県仙台市)

**地域展 激動の時代「慶長」を掘る**  
 今から400年前の日本は「慶長」という元号でした。この約200年(1595年～1615年)は、大地震・飢饉等の死者・飢餓の命、大規模の争い、幕府制度の誕生など日本史上重要な年号。出来事が揃いました。中世から近世への転換期でもあるこの時代の遺跡と出土品を通して、激動の時代、歴史を再発見しませんか？

**歴史ウォーク**  
 堺市・世帯市 堺の歴史探訪—堺歴史博物館— 12月15日（土）  
 ※参加費500円、参加申込が必要。詳細は「歴史ウォーク」チラシをご覧ください。

開催時間：午前9時30分～午後5時15分（入館は午後4時30分まで）  
 期間中の休館日＝11月26日（月）、12月10日（月）、12月17日（月）  
 入館料：一般500円（400円）、高校生250円（170円）、小中学生50円（30円）  
 ※基本料のみ。一般100円（80円）、高校生50円（30円）、小中学生20円（10円）  
 ※（1）70歳以上の高齢者料金 ※堺市在住の、在籍地の小中学生は無料  
 ※65歳以上の方、障がいのある方は無料（要証明書）

**堺市博物館** 〒590-0802 大阪府堺市東区百舌鳥長岑2丁  
 Sakai City Museum TEL.072-245-8201 FAX.072-245-6283

●中庭と和室 歴史ウォーク「百舌鳥」期半席 徒歩4分  
 ●特別展示「堺の歴史ウォーク」半席 徒歩4分  
 ●大型映像「16世紀の堺」上映室 (1)徳川幕府の成立 (2)幕府の発展 (3)幕府の衰退

**五ヶ所を巡る古代寺壇—美山遺跡を中心として—**  
 11月17日（土）14時～15時30分  
 11月25日（日）14時～15時30分  
 講師：文化庁文化財部記念物課 文化財調査官 近江俊秀氏  
 文化財調査官 近江俊秀氏

## [地域展]

特別展に併設する形で約400年前の時代である「慶長」にスポットをあてた展示を行いました。

文禄5年(1596)9月5日に現在の京都・伏見付近でマグニチュード8相当と推定される直下型大地震が発生しました。死者数の合計は京都や堺で1,000人以上を数えたと伝えられています。同年10月27日にはこの災異のため「慶長」と改元され、慶長年間(1596~1615)が始まりました。

慶長3年(1598)8月18日には権力者である豊臣秀吉が死去し、慶長5年(1600)9月15日には天下分け目の関ヶ原の合戦が起こり、慶長8年(1603)2月12日には徳川家康が征夷大將軍に任じられ、江戸幕府が開幕されます。

その後、慶長19年(1614)4月には方広寺大仏殿と梵鐘が完成しましたが、その銘文をめぐる「方広寺鐘銘事件」が勃発して、慶長19年11月19日には大坂冬の陣が起こります。和議を経て、慶長20年(1615)4月には大坂夏の陣が起こり、4月28日には豊臣方である大野治胤による堺の町への放火・焼亡、そして5月8日には大坂城の落城と豊臣氏滅亡があり、江戸幕府は同年7月13日に元号を「慶長」から「元和」と改めて、天下の平定が完了した事を内外に宣しました(元和偃武)。

つまり、わずか20年間の「慶長」は大地震で始まり政権交代を経て、そして戦乱で終わると云う、まさに激動の時代でした。しかし、必ずしも暗い時代ではありませんでした。朱印船貿易により東南アジア方面には多数の日本人が渡航して、数多くの文物がもたらされました。そして、都市では茶の湯が大流行して、「ヒョウゲタルモノ」に代表されるような新しい様式美が誕生しています。

近年の発掘調査では、400年前のこの時代を物語る遺構・遺物が発見されています。今回の展示では、その主要な舞台であった京都・大阪・堺の遺跡から出土した遺物をとおして激動の時代であった「慶長」年間を振り返ってみました。(※月日は旧暦表示です)

また、関連事業として11月25日(日)午後2時~3時30分に(独)産業技術総合研究所活断層研究センター 寒川 旭氏による講演会「秀吉を襲った大地震—地震考古学で読み解く慶長伏見地震—」を、歴史ウォークとして12月15日(土)午後1時~4時30分頃に「中世都市 堺の歴史探訪—堺環濠都市遺跡を歩く—」を行いました。

連携事業・講演会として(公財)大阪府文化財

センター主催、堺市共催で「激動の時代「慶長」を掘る」を11月24日(土)午前10時25分~午後4時30分まで堺市産業振興センターイベントホールで開催しました。

## <主な展示遺跡>

慶長伏見大地震：石清水八幡宮門前町跡・内里八丁遺跡(京都府八幡市)

伏見城・城下町：伏見城下町遺跡(京都市伏見区)

大坂城三之丸築造：大坂城下町遺跡(大阪市中央区)

方広寺跡：方広寺大仏殿関係(京都市下京区)

切支丹関係：切支丹墓碑(京都市上京区)

朱印船貿易：堺環濠都市遺跡(堺市堺区)・大坂城下町遺跡(大阪市中央区他)・内膳町遺跡(京都市上京区)

茶の湯：堺環濠都市遺跡(堺市堺区)・京都伏見城下町遺跡(京都市伏見区)・弁慶石町(京都市下京区)・大坂城跡・城下町遺跡(大阪市中央区)

大坂冬の陣・夏の陣：堺環濠都市遺跡(堺市堺区)・大坂城下町遺跡(大阪市中央区)

復興した堺の町：堺環濠都市遺跡(堺市堺区)他  
(續)

特別展  
発掘された日本列島2012  
地域展

# 激動の時代 「慶長」 を掘る

—よみがえる400年前の京都・大阪・堺—

平成24年(2012)11月17日(土)~12月24日(月)

休館日 11月26日(月)・12月10日(月)・12月17日(月)

堺市博物館 Sakai City Museum 公大 國仙

企画展「近世のやまと絵—源氏物語に求めた「雅」—」

平成25年1月12日（土）～3月3日（日）

やまと絵は、平安時代に宮廷や貴族の間で開花し、源氏物語などの物語が絵に描かれたりしました。その後も、やまと絵は連綿と受け継がれていきますが、やまと絵の継承において重要な役割を果たしたのが、土佐派の絵師たちでした。土佐派は宮中の御用をつとめる絵所預として活躍し、戦国時代には一時衰微しましたが、江戸時代初めに再び絵所預として復興しました。

衰退期の土佐派を支えたのが堺の町でした。土佐派の頭領・光茂の門人であった土佐光吉（1539～1613）は、師の息子が戦没したため土佐派を受け継ぎ、当時戦乱のさなかにあった京都を避けて、経済的に繁栄していた堺を活動の場としました。光吉が主宰していた工房の主力商品は、源氏物語を細密に描いた「源氏絵」でした。

一方、京都では戦乱の世が落ち着くにつれ、公家や町衆らの間で、平安王朝を源泉とする古典文学が盛んに享受されるようになり、源氏物語・伊勢物語などの王朝物語や、勅撰和歌集の名歌などに題材を求めた絵画や工芸品が流行しました。とくに源氏絵は、武家の嫁入り道具としても好まれ、堺から京都に戻った土佐派をはじめ各流派の絵師たちによって数多く描かれました。

本展においては、土佐派の源氏絵のほか、桃山時代から江戸時代にかけて描かれた源氏絵を展示し、近世のやまと絵の展開を眺めてみました。（宇野）

<展示品>\*名称・作者・員数・年代・所蔵

- 源氏物語図色紙（須磨） 土佐光吉筆 1面  
 桃山時代 17世紀 当館蔵
- 源氏物語図色紙 土佐派 24面  
 江戸時代 17世紀 当館蔵
- 源氏物語図屏風【堺市指定文化財】 土佐派  
 六曲一双 江戸時代 17世紀 小谷城郷土館蔵
- 源氏物語図色紙貼交屏風 土佐派 6曲1双  
 江戸時代 17世紀 個人蔵
- 源氏物語図屏風 土佐派 6曲1隻  
 江戸時代 17世紀 個人蔵
- 白描源氏物語図色紙貼交屏風 土佐派 6曲1双  
 江戸時代 17世紀 個人蔵
- 宇治・須磨図屏風 土佐光起筆 6曲1双  
 江戸時代 17世紀 当館蔵
- 源氏物語図屏風（明石・絵合） 狩野安信筆  
 6曲1双 江戸時代 17世紀 個人蔵

- 源氏物語図屏風 狩野氏信筆 6曲1双  
 江戸時代 17世紀 個人蔵
- 源氏物語図屏風 岩佐派 6曲1双  
 江戸時代 17世紀 個人蔵
- 源氏物語図押絵貼屏風 岩佐派 6曲1双  
 江戸時代 17世紀 個人蔵
- 源氏物語図色紙 54面  
 江戸時代 17世紀 個人蔵
- 源氏物語図屏風（滯標）2曲1隻  
 江戸時代 17世紀 当館蔵

<関連事業>

学芸講座（展示品解説含む）

日時：2月10日（日）午後2時～3時30分

展示品解説

日時：1月26日（土）午後2時～

<展示品より>



源氏物語図色紙（須磨） 土佐光吉筆  
 桃山時代 17世紀 当館蔵

第12帖「須磨」の場面。都を離れて須磨に佐び住まいをする光源氏は、桜を眺めつつ、宮中の桜や、都の女君たちに思いを馳せる。縦25.9cm、横21.4cmの小さな画面に、海辺の景色や源氏たちの姿が濃彩で細緻に描かれる。

裏面には、「土佐久翌」の印が捺されている。土佐光吉（号・久翌 1539～1613）は、堺を活動の場としたと伝えられ、複数の絵師を抱えた工房で源氏絵などを制作したとみられる。

## 特別企画展「南海ホークスー市民の暮らしとスポーツー」

平成25年3月9日(土)～5月12日(日)

本展は、平成24年9月に行われたコーナー展示「南海ホークスー市民の思い出の品々からー」などを通して、堺市民をはじめとするかつてのファンの皆さんにもひろく情報提供を呼びかけ、市民参加型展示として実現したものです。準備の過程で、南海ホークスに対する皆様の思いが詰まったさまざまな資料が、南海ホークスファンや球団ゆかりの人々から寄せられ、伝統ある球団の歴史を振り返り、地元で愛された南海ホークスを懐古する貴重な機会を提供することができました。

本展を通して、堺市民や府内の南海ファンにあらためて南海ホークスの魅力を認識していただき、あわせてファンと球団によって培われたスポーツ文化の奥深さにふれていただけたものと思います。

なお、本展は関西大学が堺キャンパスに人間健康学部を置いていることにちなんで、平成24年度の両者による地域連携事業として、堺市博物館と関西大学の両者が主催して開催しました。また、南海電気鉄道株式会社・福岡ソフトバンクホークス株式会社をはじめとして、多くのホークスゆかりの人々のご協力を得て、資料の提供および展覧会の広報等についても多大なご配慮いただくことができました。

展示の準備・構成および関連小冊子の編集・執筆にあたっては、関西大学社会学部の永井良和教授にご監修をいただきました。(渋谷)

〔展示構成とおもな展示品〕

※とくに注記のないものは、個人蔵。

### I. 場所の記憶

球団の創立期に利用された大浜球場、昭和14年につくられた中百舌鳥球場、「昭和の大阪城」の異名で知られた大阪球場に関する資料を紹介しました。

- ・巨人軍帰朝歓迎大野球戦招待券  
(1939年2月27日、堺大浜球場)
- ・堺市立大浜運動場絵はがき
- ・絵はがき  
(中百舌鳥球場で撮影された選手の集合写真)
- ・日本野球連盟招待券  
(1939年7月29日、中百舌鳥球場)
- ・第1回三電鉄職業野球リーグ戦招待券  
(1939年12月15日、西宮球場)

- ・球団手帳
- ・大阪球場開場式パンフレット  
(南海電気鉄道株式会社蔵)
- ・大阪球場スコアボードの一部
- ・大阪球場の内野席
- ・大阪球場シーズン席ご案内(1982年)

### II. ホークスのあゆみと選手たち

戦後を中心にチームや選手ゆかりの品々や応援にかかわる資料などを紹介し、鶴岡一人氏、杉浦忠氏ゆかりの記念品なども特集展示しました。

- ・SPレコード「南海ホークスの歌」  
(灰田勝彦歌唱)
- ・二軍トーナメント戦優勝時のトロフィー(1950年)
- ・日本シリーズ優勝ペナントのレプリカ(1959年)
- ・1966年パ・リーグ優勝記念ブロンズ像
- ・『南海ホークスとともに』(1962年)
- ・ジュニアホークス球団旗
- ・1959年度最多勝利投手賞ほかフラッグ5点  
(太平洋野球連盟から杉浦忠選手に贈られたもの)
- ・150勝記念トロフィー  
(1964年5月26日、南海野球株式会社)
- ・日本シリーズ優勝ペナントのレプリカ(1964年)
- ・ユニフォーム(中条博選手ほか計9点)
- ・大阪球場最終試合のチケット
- ・ビクターゲームのチケット類
- ・コクサイホテル「さよなら南海ホークスの夕べ」  
関連資料(記念ペナントなど)

### III. モノからたどるファンのこころ

ファンから寄せられた資料を中心に、ファンとの交流、子ども向けのグッズ類、さまざまな記念品類を展示しました。

- ・ファンブック(1974～88年)
- ・南海ホークス子供の会・少年ホークスの会会員証  
(1975～88年)
- ・南海ホークスファンクラブ会報
- ・南海ホークス応援会看板
- ・『ホークス・ニュース』(南海球団)
- ・南海ナイター番組プレゼント色紙  
(ラジオ大阪・和歌山放送)
- ・南海ホークス創立50周年記念乗車券
- ・EPレコード『南海ファンやもん』



- ・南海ホークス応援会応援旗
- ・南海ホークスを優勝させたろやない会応援旗

#### IV. 堺のスポーツ文化

水泳・バレーをはじめとして、堺市域で培われたスポーツ文化の過去・現在・未来を紹介しました。

- ・第5回全国学生相撲大会優勝賞状 (当館蔵)
- ・第5回全国学生相撲大会優勝絹手綱 (当館蔵)
- ・第1回渡米記念トロフィー (2点、当館蔵)
- ・第1回国民体育大会ポスター (当館蔵)
- ・新日鉄バレーボールチームサイン色紙 (堺市スポーツ推進課蔵)
- ・サインボール (野茂茂雄選手、堺市スポーツ推進課蔵)
- ・堺ブレイザーズ優勝記念サインバレーボール (堺市スポーツ推進課蔵)
- ・井岡一翔選手サイン (堺市スポーツ推進課蔵)

#### <関連事業>

- ・堺市博物館における記念講演会  
演題：「南海ホークスと私」  
講師：岡本伊三美氏（公益財団法人全国野球振興会理事、元南海ホークス主将）  
コーディネーター：永井良和氏（関西大学社会学部教授）  
日時：平成25年3月17日（日）午後2時～3時30分  
場所：堺市博物館地階ホール
- ・関西大学堺キャンパスにおける記念シンポジウム  
シンポジウム「スポーツとデザイン、スポーツとサウンド」  
日時：平成25年4月13日（土）午後2時～午後5時  
場所：関西大学堺キャンパス S A 501教室  
報告1：綱島理友氏（プロ野球意匠学研究者）  
「アメリカ社会とスポーツー野球のユニフォームの変遷から読み解くー」  
報告2：永井良和氏  
「スタジアムと音ー観客とファンと視聴者ー」  
コーディネーター：杉本厚夫氏（関西大学人間健康学部教授）
- ・ギャラリートーク  
日時：平成25年4月6日（土）午後2時～  
場所：堺市博物館展示場  
講師：永井良和氏、当館学芸員



## スポット展示・コーナー展示・特集展示

観覧者の多様な興味に応じて開催するスポット展示や、市の行事と連携して開催するコーナー展示や特集展示は、常設展などの内容を掘り下げたミニ企画展示です。

### スポット展示

#### 「小西行長と戦国武将—ゆかりの資料からさぐる—」

平成24年5月8日（火）～6月3日（日）

小西行長（1558?～1600）は、堺の有力商人小西一族の出身で、豊臣秀吉配下の部将として活躍し、小豆島や室津といった瀬戸内海の要所の管理を任せ、「海の司令官」とも呼ばれました。その後、秀吉によって肥後（現在の熊本県）南半国を与えられ、宇土を居城としました。小西行長の父・立佐や兄・如清も行長とともに、秀吉に仕え、堺など主要な都市の代官を歴任するなど、多くの足跡を残しています。秀吉の死後におこった関ヶ原の戦いでは、石田三成と行動を共にしましたが、戦後に首謀者として京都で処刑され最期をむかえています。行長は、キリシタン大名としても有名で、イエズス会の宣教師が残した記録のなかにも「ドン・アゴスチノ」の名でキリシタンとしての彼の活動が描かれています。

今回のスポット展示では、永運院文書（京都市指定文化財、京都市歴史資料館所蔵）のなかの「小西行長書状」（折紙）や大阪城天守閣所蔵の「小西行長書状」（切継紙）など、豊臣政権での行長の活躍や朝鮮出兵にかかわる資料類を中心に行長の足跡をわかりやすく紹介しました。

くわえて、近年当館に寄贈された資料を含む、同時代の戦国武将に関係する書状類などもこの機会にあわせてご覧いただきました。

このほか、堺代官をつとめた、行長の父・立佐にかかわる資料として「石田正継塩風呂掟書（旭蓮社大阿弥陀経寺蔵）を当館では初めて展示しました。

なお、本展は、5月23日（水）～27日（日）に実施された「堺市春季文化財特別公開」（主催・おいでよ堺21実行委員会）と連携して開催したのですが、同事業の関連行事として下記の講演会を行いました。（渋谷）

日時：5月26日（土）午前10時～11時30分

「再発見！堺と小西行長」

講師 鳥津亮二氏（八代市立博物館学芸員）

日時：5月27日（日）午前10時～11時30分

「小西行長と加藤清正～史料からわかる二人の関係～」

講師 大浪和弥氏（延岡市文化課学芸員）

### 〔展示品一覧〕

#### I. 小西行長の面影

- ・伝小西行長所用鞆皮包胴丸（個人蔵）
- ・豊臣秀吉朱印状（当館蔵）
- ・豊臣秀吉朱印状（妙國寺蔵）
- ・小西行長書状（折紙）  
（永運院文書、京都市歴史資料館蔵）
- ・小西行長書状（切継紙）（大阪城天守閣蔵）
- ・加藤清正等二十二名連署血判起請文（縦継紙）  
（大阪城天守閣蔵）
- ・石田正継塩風呂掟書（旭蓮社大阿弥陀経寺蔵）

#### II. 小西行長と同時代群像

- ・豊臣家五奉行連署状（当館蔵）
- ・石田三成書状（当館蔵）
- ・豊臣秀吉画像（当館蔵）

#### III. 南蛮文化への親しみ

- ・中国図 オルテリウス（当館蔵）
- ・祭服（当館蔵）
- ・南蛮屏風（6曲1双、個人蔵）
- ・西宗真由緒書（本受寺蔵）
- ・忍入太閤記（当館蔵）

※このほか、宇土城址や行長が朝鮮出兵の際に築いた順天倭城・熊川倭城の写真（宇土市教育委員会提供）および関ヶ原古戦場の写真などをパネル展示し、より展示内容をご理解いただけるように工夫しました。

### スポット展示

#### 「古墳と世界遺産—百舌鳥野の小さな古墳—」

平成24年6月5日（火）～7月1日（日）

堺市では、大阪分・羽曳野市・藤井寺市とともに百舌鳥・古市古墳群を世界文化遺産に登録しようと、いろいろな取り組みをしています。

今回の展示では、百舌鳥古墳群での近年の調査から、新たな成果をもたらした小規模古墳を中心に紹介しました。（増田）

## スポット展示

### 「タイの古陶磁—北部 ランナー王朝の優品—」

平成24年7月3日(火)～8月5日(日)

今回の展示では、個人所有のタイ古陶磁コレクションの中から、13世紀～16世紀にかけて北部タイ地域に存在したランナー王国の陶磁器を紹介しました。

ランナー王国の陶磁器は日本国内での出土例はなく、あまり馴染みはありませんが、カロン窯・サンカンペン窯・パーン窯などの窯が存在し、主に白磁・青磁や鉄絵文様を施した陶器などを生産していました。

カロン窯の青磁双魚文押型輪花大皿や緑釉佛頭、サンカンペン窯の褐釉刷毛目双耳壺、パーン窯の青磁花文輪花皿など31点を展示しました。

また、「堺・アセアンウィーク2012」(堺市アセアン交流推進室・10月1日～14日開催)の連携事業として期間内に活動などを紹介するパネル展示を行いました。(續)



青磁鉄絵唐草文大壺 16世紀(カロン窯)

## 没後150年記念スポット展示

### 「近世日本の書聖・貫名海屋—菘翁時代—」

詩・書・画 一体の美

平成24年8月7日(火)～9月2日(日)

貫名海屋(菘翁)(1778～1863)は、阿波徳島藩の藩士で小笠原流の礼方家であった吉井家の次男に生まれた書家です。海屋は、京都で私塾「須静堂」で儒学を講じながら、空海など平安時代の作品に伝わる中国の晋の王羲之・王献之父子や唐の褚遂良らの書法を学んで晋・唐の書風を究めるとともに、儒学の造詣の深さがにじみ出る書作品を生み出しました。また、海屋は、南画家として

も名が高く、京や大坂をはじめとする摂河泉の文人たちとも交流を深めました。海屋は、書の世界において市河米庵・巻菱湖とともに「幕末の三筆」に数えられ、明治時代には日下部鳴鶴や巖谷一六らによって賞揚・喧伝され、高い評価を得て、後世、「近世日本の書聖」とも称されました。彼の絵画作品などから堺の住民との深い結び付きも知られています。

本展では、平成24年が貫名海屋(菘翁)の没後150年に当たることを記念して、書道界によく知られる館蔵山下是臣コレクションの貫名海屋(菘翁)作品群から、晩年期の完成された「菘翁書風」と最晩年の「中風様書風」の優品を通じて、菘翁時代の「詩・書・画 一体の美」を体現している書と南画をご鑑賞いただきました。(倉橋)

## <出品リスト>

### A、南画作品

法費晴湖山水図 行書五言絶句賛	1幅
懸崖蘭竹図 草書五言絶句賛	1幅
松図 行書五言四句賛	1幅
瀑布図 行書七言二句賛	1幅
枯木寒鴉図 草書七言絶句賛	1幅

### B、菘翁書風の書作品

大字「眠雲」「臥石」	対幅
草書竹七言絶句	1幅
行書論声律七言律詩	1幅

### C、中風様書風の書作品

草書題漁楽図七言古詩	1幅
草書寒松貞節五言古詩	1幅
草書題富士升龍図七言絶句	1幅

### D、稿本・臨模本等

臨唐懷素 藏真帖・律公帖	1帖
須静堂詩稿帖	1帖
詩稿四首卷	1卷

以上、114件

## <関連行事>

### 1、学芸講座(展示品解説含む)

日時:9月1日(土)午後2時～3時30分

演題:貫名海屋の書風について

## スポット展示

### 「堺の刀工たち—金属産業のルーツを訪ねて—」

平成24年9月4日(火)～9月30日(日)

堺の金属産業は非常に長い歴史をもっている

す。一説には、百舌鳥古墳群が築造された際にこの地に集められた金属関係の工人たちが、そのまま居住したのが始めといわれており、平安時代末期以降、市内美原区と東区日置荘地域を中心として活躍する河内鑄物師（かわちいもじ。丹南鑄物師）は彼らの子孫だったといわれています。現在でも庖丁などの刃物類や自転車部品などの生産は世界的にも有名です。

刀剣史のうへでは、中世に和泉地方で製作された泉州刀が知られています。日本の刀剣類は、国内はもちろん、国外でも価値を認められ、古代から一貫して相当量の輸出がなされてきました。そのような日本の刀剣類の中でも、泉州刀は国内各地の刀剣類と比較しても劣らない、優れた作品が多く、近年評価が高まっています。堺や泉州において製作された刀剣類は、重要な商品として都市堺の発展の一端を担い、また製作技術等の蓄積は、戦国時代の行方を左右したともいわれる堺の鉄砲製作の基盤ともなり、現代の堺における金属産業発展の礎の一つになったと考えられます。

本展では、堺や泉州に関わりのある刀剣類や関係資料を館蔵品の中から展示し、堺の刀工たちと金属産業の歴史の一端を紹介しました。（村田）

#### <展示品>

- 1 刀 銘 泉州住包真才次郎作／永正二年八月六日  
1口 永正2年（1505）
- 2 刀 銘 泉州住包真作／享禄三年八月吉日  
1口 享禄3年（1530）
- 3 刀 銘 資正作 1口 室町時代
- 4 刀 銘 泉州住正清作 1口 室町時代末期
- 5 脇指 銘 泉州住光正作／文明十年□月吉日  
1口 文明10年（1478）
- 6 脇指 銘 撰州堺之住資正造 1口 室町時代
- 7 脇指 銘 泉州住兼氏 1口 室町時代
- 8 短刀 銘 泉州住助信／天文二年八月日  
1口 天文2年（1533）
- 9 短刀 銘 泉州住正光作 1口 室町時代
- 10 槍 銘 泉州住光正作 1本 室町時代初期
- 11 刀 銘 泉州住正清作 1口 桃山時代
- 12 脇指 銘 泉州住正清 1口 桃山時代
- 13 小柄 銘 堺山上文殊藤原包次 1口 江戸時代
- 14 脇指 銘 堺住沖本國忠／大正六年九月造  
1口 大正6年（1917）
- 15 和泉名所図会 卷之二  
秋里籬寫著 1冊 寛政7年（1795）

#### 16 大日本物産図絵 泉州打物見世之図

三代安藤広重筆 1枚 明治10年（1877）  
計16点

#### スポット展示

##### 「東南アジアの人形芝居一舞台の小さな主役たち」

平成24年10月2日（火）～11月4日（日）

平成23年10月、当館内にユネスコが賛助する「アジア太平洋無形文化遺産研究センター」が開設されました。本展はその一周年を記念し、東南アジアの文化の多様性について堺市内外の方々に広く知っていただくため、ユネスコの「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」に記載されているスバエク・トム（カンボジア）や、同じく記載されている「ワヤン」のうち、ワヤン・クリット、ワヤン・ゴレック（以上インドネシア）を中心に、東南アジアの人形芝居について取り上げ展示しました。

本展については、国立民族学博物館および同館の福岡正太准教授にご協力いただき、福岡准教授には図録もご執筆いただきました。会期中に開催した第2回無形文化遺産理解セミナーでは、「東南アジアの人形芝居を楽しもう」と題し、福岡准教授の講演のほか、ジャワ芸能ユニット「ハナジョス」によるワヤン・クリットの上演、参加者による実演が行われました。（堀川）

#### <主な展示品>

ワヤン・クリット、ワヤン・ゴレック（以上、インドネシア）、スバエク・トム、スバエク・トーイ（以上、カンボジア）、ナンヤイ、ナンタルン（以上、タイ）、水上人形（ベトナム）、ワヤン・クリット（マレーシア）、ヨウテー・プー（ミャンマー）

全36点、すべて国立民族学博物館蔵

#### スポット展示

##### 「クイズ!?むかしの道具」

平成25年1月5日（土）～3月31日（日）

当館が収集している、昔使われていた道具をクイズ形式で展示し、道具の変化やそれによってもたらされた生活の移り変わりを紹介しました。

なお、開催期間中には関連学校関係行事として、地階資料学習室に昔の道具体験コーナー等を設置し、市内の小学校3年生の団体見学を対象に、昔の道具体験会を開催し、足踏み脱穀機、や石臼の体験、むかしの遊びなどを学習していただきました。（倉橋）

## コーナー展示

「南海ホークスー市民の思い出の品々から」

平成24年9月4日（火）～9月30日（日）

1938（昭和13）年に創設され、1988（昭和63）年に福岡へ本拠地を移転するまで、地元大阪、泉州で根強い人気を得たプロ野球球団「南海ホークス」は、堺市域ともつながりが深い球団でした。堺市域では、中百舌鳥球場が本拠地や二軍の練習場となり、選手寮「秀鷹寮」も設けられるなど、関連施設が身近にあったため、多くのファン層が育まれました。

本展では、平成25年春に開催した特別企画展「南海ホークスー市民の暮らしとスポーツ」に先立って、約30点の資料を展示し特別企画展に向けて、市民への周知を図るとともに、市民に向けて広く関係資料の情報提供を呼びかける目的で開催しました。（渋谷）

## コーナー展示

「千利休と古田織部一茶の湯ゆかりの資料」

平成24年10月2日（火）～11月4日（日）

堺は千利休を生んだ地として、内外にその名が知られています。本展では、堺まつりの行事の一環としておこなわれる堺大茶会、および平成24年度秋季文化財特別公開（10月29日～11月4日、主催・おいでよ堺21実行委員会）と連携して開催しました。

本展は、文献資料と考古資料の二つの部分から構成し、文献資料では、堺にゆかりの茶人千利休とその系譜に連なる高弟古田織部や織部の弟子・小堀遠州の書状類、おなじく高弟である山上宗二の著した『山上宗二記』（堺市指定有形文化財、当館蔵）などを展示しました。また考古資料として、堺区旧市街地の堺環濠都市遺跡（SKT）から出土した織部焼・志野焼などもあわせてご覧いただきました。

また、秋季文化財特別公開の関連事業として、下記の講演会を開催しました。（渋谷）

日時：10月27日（土）13時30分～15時

「古田織部と堺衆・千利休と山上宗二」

講師 矢部良明氏（人間国宝美術館館長）

日時：10月28日（日）13時30分～15時

「『へうげもの』の真髓を焼物で探る」

講師 矢部良明氏

## 特集展示

「河口慧海と肥下徳十郎一堺の友への想い」

平成25年1月23日（水）～2月17日（日）

慶応2年（1866）和泉国堺山伏町（現在の堺区北旅籠町西3丁）に生まれた河口慧海は、仏教の原典をもとめて日本人で初めてヒマラヤを越えて当時鎖国下のチベットに入った人物として知られています。帰国後刊行された『チベット旅行記』は、仏教学者だけではなく民族学者、探検家にも高く評価され、英訳も出版されました。

慧海のチベット行きは多くの人々の協力のもと実現しましたが、なかでも、少年時代からの学友だった、北旅籠町東の実業家・肥下徳十郎は「無二の親友」として、生涯慧海を支えました。

本展では、肥下徳十郎のご子孫が保管され、今まで一般に知られることのなかった慧海直筆の日記や書簡など初公開の資料により、ふたりの交流の軌跡や、堺と慧海との関わりをたどりました。

なお、本展は文化財課との共催で、町家歴史館清学院との二会場での展示を行いました。展示については高野山大学の奥山直司教授にご監修いただき、奥山教授による講演会も開催しました。

（堀川）

講演会「河口慧海と肥下徳十郎

～新たに発見された資料から～

日時：平成25年1月27日（日）午後1時30分～3時

講師：奥山直司氏（高野山大学文学部教授）

